

温室効果ガスの削減に取り組んでいます

昨年7月に開催された^{とうやこ}洞爺湖サミットでは、地球温暖化問題が重要課題として話し合われ、2050年までに世界全体の温室効果ガス排出量を50%削減する目標を全世界で共有することが提言されました。

この目標達成のために、市では、先導的な一事業者として、『地球温暖化対策実行計画』を策定し、全庁的（出先機関等を含む）にさまざまな取り組みをしています。本計画は、基準年度を平成17年度とし、目標年度である平成23年度までに、おおむね3%の温室効果ガスを削減しようとするものです。今回、平成19年度の算定が終了し、約1.2%の減少効果があり、この結果を踏まえ、市では、取り組みを強化するなど、引き続き温室効果ガス排出量の削減に努めます。

つくばみらい市役所の温室効果ガス排出量の推移

単位：t-CO₂

区分	合計	電気	燃料	自動車		汚水処理	その他
				ガソリン車	軽油車		
平成19年度	7,350	6,026	889	172	54	206	3
平成17年度 (基準年度)	7,439	6,140	931	168	42	154	4
増減(%)	-1.2	-1.85	-4.5	2.4	28.5	33.8	-25.0

国民1人あたりが排出するCO₂の量は、1日平均で約6kgです。自分にもできることからひとつずつ、取り組みを重ねていくことで、CO₂が減らせます。1kgのCO₂とは、サッカーボール100個分の体積に相当します。皆さんにもできるCO₂削減の取り組み方をいくつか紹介します。

ごみの減量・資源化にご協力ください

～生ごみはきちんと水を切って～

平成23年度から供用開始予定のごみ処理施設（常総環境センター）の処理能力は、現行施設より100トンほど縮小されることになり、家庭ごみのさらなる減量が求められます。そのため、徹底した分別による資源化やごみとなるものを家庭に持ち込まないこと、ごみを作らないことが大切です。

常総環境センターへ搬入されるごみの量は、構成4市の合計で「可燃ごみ」だけで1日約200トンにのぼり、そのうち60トンが生ごみです。生ごみには多くの水分が含まれているため、**きちんと水を切って出していただくことで、減量につながります**ので、各家庭での取り組みをお願いします。

市では、生ごみの減量のために、「生ごみ処理機」や「コンポスト」等を購入した場合の補助制度を次のとおり設けていますのでご活用ください。

品名	限度数	補助額
生ごみ処理機	1世帯1基まで	購入金額の 2分の1 (2万円を限度)
コンポスト	1世帯2基まで	購入金額の 2分の1 (2千円を限度)

詳しくは、谷和原庁舎生活環境課 ☎58-2111（内線8136～8138）までお問い合わせください。



- ・冷蔵庫の中は詰め込み過ぎない …CO₂ -18 g
- ・車の運転では急加速をしない …CO₂ -73 g
- ・マイバックで買い物をする …CO₂ -62 g
- ・残ったご飯をジャーで保温しない …CO₂ -37 g

●やわら ライオンズクラブ

新入児童の防犯対策に役立つ

を寄贈していただきました。同行からは、平成17年度より毎年防犯ブザーを寄贈していただいています。

●茨城みなみ 農業協同組合

市内全小中学校の新1年生に対し、「交通安全帽子」を寄贈していただきました。同組合は交通安全事故防止活動の一環として長年にわたって寄贈を続けてこられています。

●(株)常陽銀行

地域貢献活動の一環として、安心して生活できる地域社会づくりに少しでも貢献したいとの願いと、児童一人ひとりの防犯意識の向上に役立ててほしいとの思いにより、市内小中学校（小張小・豊小・谷井田小・三島小・板橋小・東小は新1年生、谷原小・十和小・福岡小・小絹小は新4年生）に対し、「防犯ブザー」を寄贈していただきました。同クラブからは、平成12年度より毎年新1年生に防犯ブザーを寄贈していただいています。



ブザーと帽子が私たちを守ってくれます

**防犯ブザー
と
交通安全帽子**

ありがとうございます！